

令和6年度 特別の教育課程（書道科）の実施状況等について

春日井市立鷹来小学校

1. 本校の教育目標

21世紀を担う児童が生涯に渡って生きていくための資質の育成を図るとともに、社会の変化に対応できる人間性豊かで行動力ある児童を育成する。また、国際社会に生きる日本人としての自覚を育てる。

○たくましい子	○かしこく心やさしい子	○きんろうを愛する子
・力いっぱい最後までやりぬく子 ・心とからだのじょうぶな子 ・挑戦する子	・自分の考えをもち、自分を表現する子 ・礼儀正しく、感動する心をもった子 ・人を大切にする子	・進んでよく働く子 ・働く喜びを知り、感謝できる子

2. 特別の教育課程の内容

（1）特別の教育課程の概要

小学校第1～6学年において新教科「書道科」が平成27年度に新設され、今年度で8年目を迎えた。第1学年は、国語を30時間、生活科を4時間削減して34時間を授業時数とする。第2学年は、国語を30時間、生活科を5時間削減して35時間を授業時数とする。第3～6学年は、国語を30時間、総合的な学習の時間を5時間削減して35時間を授業時数とする。「書道科」において、書を書くという具体的な活動を通し、友だちと触れ合ったり、家庭生活での話題をもたらしたり、地域の人々との関わりを生んだりする。そこから、集団の中での自分の役割や行動の仕方を考えさせるとともに、「書のまち」に生きるよさと愛着をもたせる。

また、「書道」という伝統文化や「書のまち」を発信する地域の特性を探究する活動にも取り組むことを通して、表現力の向上と向上心の伸長を図るとともに、日本古来の文化や自分の生活する地域を振り返りながら自己の生き方をも考えさせる。

（2）特例の適用期間

平成27年4月1日～令和11年3月31日

（3）実施学年

1年、2年、3年、4年、5年、6年、（特別支援学級 単独でも実施）

（4）地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本市は、三蹟のひとり小野道風の生誕の地と言われており、全国的にも数少ない書専門の美術館小野道風記念館を有し、「書のまち春日井」として、書道の普及発展に力を入れている。特に、小野小学校では、愛知県下児童・生徒席上揮毫大会が昭和11年から戦争中も途切れることなく開催され、第1回からの優秀作品を保管するなど、愛知県の書道教育の中心的な役割を果たしてきている。

書道は、「文字を正しく整えて書く」ことにおいて、従前から行われてきた国語科における書写

の目的に共通するが、その文化・芸術性及び精神性においては、書写とは一線を引くものである。現在、児童の「表現力の向上」「心の教育の充実」などが重要な教育課題であると認識している。それらを解決するため、前述した地域性や学校の特色、さらには書道の特性を活かした「書道科」を新設し、表現力の向上を目指すとともに、よりよい作品をつくりあげようとする向上心、つくりあげた達成感から得られる自尊感情、相互評価などの他者との関わりから得られる親切心や規範意識等、特に心の充実を図りたいと考える。また、同時に郷土愛についても、書道を通して「書のまち春日井」に根ざして生活している自覚を促し、育てていく。

（５）学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

２に記載する特別の教育課程について、教育基本法（平成 18 年法律第 120 号）及び学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）に規定する小学校等の教育の目標に関する規定等に照らして適切であることを、春日井市教育委員会において確認済。

３．特別の教育課程の実施状況に関する評価

（１）評価の観点

- ① 特別の教育課程の編成・実施により、学校の教育目標が十全に達成されているか
- ② 教育課程全体としてバランスのとれた教育活動が実施され、学校教育法に示す学校教育の目標が十全に達成されているか

（２）自己評価

児 童	・ 始筆、送筆、そり等の書き方を学び、清書にいかすことができた。 ・ 手本を見て、文字を集中して丁寧に書くようと心がけた。 ・ コンクールへ作品を出す機会があったので、意欲的に取り組めた。
教 員	・ デジタル教科書に掲載されている毛筆の書き方の動画を児童に視聴させたことで、児童の技能面の向上につながった。 ・ 書道科講師の専門的な指導により、児童の書に対する関心が高まるとともに、教員の指導力が向上した。
保護者	・ 書道科講師から書について学ぶことは、子どもにとって貴重な体験だと思う。 ・ 書の時間を楽しみにしている声をよく聞く。 ・ 姿勢に気をつけて文字を書くようになった。

（３）学校関係者評価

・ 専門家の指導は、子どもたちの技能向上に欠かせない。 ・ コンクールへ出品することで、児童の書道への関心が高まり、丁寧に文字を書こうとする意識が向上した。 ・ 書の時間は楽しく自分の役に立つと回答している児童が 8 割に達しているので、評価できる。
